

1 平成 26 年度調査

神奈川県内において指定管理業務及び委託に関し、実績のある業者から見積書を徴したところ、次のとおりであった。なお、委託に関しては、貸出、返却を中心とした窓口業務の部分についての委託とした。

(1) 指定管理

	A社	B社	鎌倉市
経費	291,555,296 円	322,165,000 円	312,795,384 円

(2) 委託

	A社	B社	鎌倉市
経費	122,220,773 円	97,572,000 円	100,732,707 円

* 鎌倉市の経費は、非常勤嘱託員の報酬と費用弁償及び正規職員の人件費の 3 割を見込んだものである。

2 鎌倉市図書館の現状等

(1) 鎌倉市図書館の現状

ア 職員配置表（平成 28 年 4 月 1 日現在）

	中央図書館	腰越図書館	深沢図書館	大船図書館	玉縄図書館	合計
正規職員	10	3	3	3	3	22
再任用職員	2					2
非常勤嘱託員	19	6	6	6	6	43

イ 正規職員の内訳（平成 28 年 4 月 1 日現在 任期付職員は含まず）

	中央図書館	腰越図書館	深沢図書館	大船図書館	玉縄図書館	合計
事務職員	4	2	2	1	2	11
技術職員	6	1	1	2	1	11
計	10	3	3	3	3	22

ウ 開館時間

(ア) 木曜日、金曜日を除く平日と土曜日、日曜日、祝日

9時から17時まで

(イ) 木曜日、金曜日

9時から19時まで

エ 経年変化

(ア) 貸出資料数 (冊)

	平成24年度	平成25年度	平成26年度	平成27年度	冊数差
中央図書館	457,297	433,489	408,252	404,964	-3,288
腰越図書館	238,590	222,113	211,529	214,252	2,723
深沢図書館	264,705	271,441	264,049	266,843	2,794
大船図書館	330,937	280,282	297,450	313,378	15,928
玉縄図書館	228,260	220,195	201,083	212,162	11,079
小計	1,519,789	1,427,520	1,382,363	1,411,599	29,236
団体貸出	2,619	185	1,737		
合計	1,522,408	1,427,705	1,384,100	1,411,599	27,499

(イ) 予約受付件数

	平成24年度	平成25年度	平成26年度	平成27年度	件数差
中央図書館	325,967	315,730	304,101	295,957	-8,144
腰越図書館	21,064	16,316	16,443	18,041	1,598
深沢図書館	23,296	22,991	22,380	22,840	460
大船図書館	24,845	22,783	22,624	24,883	2,259
玉縄図書館	17,931	16,276	15,144	17,631	2,487
合計	413,103	394,096	380,692	379,352	-1,340

(ウ) 資料相談件数

	平成24年度	平成25年度	平成26年度	平成27年度	件数差
中央図書館	12,011	7,928	25,328	30,464	5,136
腰越図書館	6,005	7,077	15,796	17,692	1,896
深沢図書館	8,873	9,600	18,947	18,593	-354
大船図書館	11,266	12,217	20,944	24,278	3,334
玉縄図書館	8,259	6,057	11,754	14,087	2,333
合計	46,414	42,879	92,769	105,114	12,345

(エ) 複写サービス (枚)

	平成24年度	平成25年度	平成26年度	平成27年度	件数差
中央図書館	64,046	61,452	51,344	50,941	-403
腰越図書館	7,402	7,067	5,777	5,109	-668
深沢図書館	9,250	7,908	6,839	7,261	422
大船図書館	11,773	7,750	7,763	6,932	-831
玉縄図書館	4,758	6,455	5,157	4,318	-839
合計	97,229	90,632	76,880	74,561	-2,319

(オ) 行事実施状況 (参加人数)

	平成24年度	平成25年度	平成26年度	平成27年度	人数差
おはなし会	1,900	2,494	3,022	3,652	630
ブックスタート	1,987	2,206	2,128	1,924	-204
講演会	521	552	558	331	-227

(カ) 学校貸出等

	平成24年度	平成25年度	平成26年度	平成27年度	件数差
学習パック	40	38	44	47	3
子ども読書パック	23	42	84	110	26
学校貸出	36	62	78	90	12

オ 同規模図書館との比較 (参考 日本の図書館 統計と名簿 2014)

*人口 15 万人以上 20 万人未満の 47 市での比較

(ア) 司書・司書補の資格を有する職員数 (平成 26 年 4 月 1 日現在)

鎌倉市は 19 人で、47 市中 7 番目である。(平均 8 人)

(イ) 蔵書冊数 (平成 26 年 3 月 31 日現在)

鎌倉市は 541,000 冊で、47 市中 24 番目である。(平均 584,000 冊)

(ウ) 個人貸出数 (平成 25 年度実績)

鎌倉市は 1,428,000 点で、47 市中 9 番目である。(平均 1,059,000 点)

(エ) 文献複写枚数 (平成 25 年度実績)

鎌倉市は 91,000 枚で、47 市中 2 番目である。(平均 25,000 枚)

(オ) 資料費予算額 (平成 26 年度)

鎌倉市は 27,643,000 円で、47 市中 37 番目である。(平均 40,630,000 円)

3 藤沢市の図書業務員

職名	日額(日額換算)	月額
藤沢市図書業務員一般(月10日)	(8,100円)	81,000円
藤沢市図書業務員専門(月16日)		
委嘱期間2年以内	(11,475円)	183,600円
委嘱期間2年以上	(12,625円)	202,000円

4 平成 27 年度 鎌倉市図書館協議会協議内容

第1回鎌倉市図書館協議会(平成27年7月9日)	
協議事項	諮問事項「鎌倉市図書館の運営について」
意見等	<ul style="list-style-type: none"> ・地域館に正規職員が一人でもいた方が人的にも、子どもたちにも必要なことと考える。 ・非常勤嘱託員を限りなく専門性が高くするための研修が必要である。 ・学校に図書館が複合化されるにあたっては、セキュリティをどうするかが一番の課題である。正規の職員がいない場合、安全面で担保されるのか。

第2回鎌倉市図書館協議会(平成27年10月14日)	
協議事項	諮問事項「鎌倉市図書館の運営について」
	<ul style="list-style-type: none"> ・鎌倉市図書館の現状について ・同規模図書館との比較 ・神奈川県内の図書館の運営状況 ・他市の事例
意見等	<ul style="list-style-type: none"> ・運営体制としては直営でいく。 ・長期的視野をもって鎌倉の図書館をどうあるべきかを常に考えるのは、職員の責務である。 ・予算も人員も限られた中で、向上していくためには業務内容の見直しとか仕分けが必要である。業務内容を検証し、職員が行うのか、ボランティアや地域の活用はできないのか検討し、限られた人材が専門的な力を発揮できるような業務体制をつくる必要がある。

第3回鎌倉市図書館協議会(平成28年1月27日)	
協議事項	諮問事項「鎌倉市図書館の運営について」
	<ul style="list-style-type: none"> ・人口の将来展望についての分析 ・鎌倉市図書館の運営に関しての3案
意見等	<ul style="list-style-type: none"> ・図書館の効率化とサービス向上を、市の財政事情等を勘案した上で、どのように方針を作るのが重要であると思う。 ・協議会として何らかの答申を出していく場合、一方では市全体のことを考え、一方では職員のことも考える。双方の折り合いをつけていくしかないのではないか。 ・鎌倉市図書館の運営に関しての3案は、協議会の中で出された意見をくみ上げたうえでの案だろうと思う。 ・鎌倉市図書館の運営に関しての3案に対しての職員の意見を聞きたい。

第4回鎌倉市図書館協議会(平成28年3月25日)	
協議事項	諮問事項「鎌倉市図書館の運営について」
	<ul style="list-style-type: none"> ・鎌倉市図書館の運営に関しての3案 ・答申骨子(案) ・職員との話し合いの結果
意見等	<ul style="list-style-type: none"> ・職員が、問題点、課題を率直に話し合われ、一定の認識ができたのかなと思う。しかしながら、職員の意見、問題点は理解できるが落としどころはどこなのか。 ・鎌倉としては、直営で地域館を大切にしながら運営していくことを答申に盛り込んだ方がよいと思う。 ・様々な課題があることは十分認識している。様々な課題があることを答申に明記する形を取れば、あとは内部で検討することは可能なのではないか。 ・セキュリティ面で、土日祝日に行政センターに正規職員が一人というのは大きな問題である。 ・図書館はあらゆる世代に開かれている点からみると、地域館の大切さを継続していくのが鎌倉らしい図書館かと思う。 ・地域館の弱体化は避けられないと職員の見解の中にあるが、弱体化を避けるためにはどうしたらよいか、弱体化しない方策を考えていかないと。 ・大船図書館は、かなり貸出が多く、働いて大船駅で下車して利用する方が多いということを考えれば、C案が良いと考える。

	<ul style="list-style-type: none"> ・地域館を残すという方向性、弱体化をなるべく避けるならばC案がよい。大船図書館については、時間延長を始めるにあたって職員を減らすことは、トラブルへの対応、通常業務の波に乗るまでは避けた方がよいと思う。 ・大船図書館だけではなく、深沢図書館も子ども読書を推進している館として、現状の体制のままにして欲しい。
--	---

5 平成 28 年度 鎌倉市図書館協議会協議内容

第1回鎌倉市図書館協議会(平成28年7月28日)	
協議事項	諮問事項「鎌倉市図書館の運営について」 ・鎌倉市図書館の運営について(答申)案
意見等	<ul style="list-style-type: none"> ・今までの協議会の中でも、判断材料に乏しいという意見もあり、重要な案件なので、4回の協議だけで結論を出してよいのかとの意見もあり、議論をつくしていない部分があるのではないかと。結論を急がないで慎重に審議してもらいたい。 ・前回の協議会で、委員全員で答申を出そうという方向で固まっていた。4回議論を重ねてきて、大筋のところは固まってきたと認識している。委員の意見は十分反映されている答申案と思う。 ・大筋の部分でも議論が足りないところがある。諮問の仕方も少しおかしかったのではないかと。地域館はどのように運営すべきなのか。現状はどうか。どれくらいのサービスができていないのか。まだまだ足りない部分があるのか。そのようなことを洗い出して、検討材料が十分にそろった段階で、地域館の運営のあり方を考えてくださいと、それに対して図書館としては、人員体制について考えているという提案があれば、いきなり財政が厳しいので、人員を減らせないと言われても。 ・前回、答申を出すはずであったが、議論が意見が、まだ出し切れていないのではないかと。言うことで、1回延ばした。今回は、答申を出すということで臨んでいる。 ・議論の成り行きの中から、今日決めるのか、延ばすのかはおのずと決まるのかなと思う。図書館としての基本的なところを考えるのが図書館協議会の役割と思う。足りないのはその辺のところである。鎌倉の図書館の具体的なビジョンに関して触れられていない。こういう図書館にしたいので、今、こういうことが必要であると書かれていれば判断できる。 ・附帯意見を答申につけるということではどうか。一方的では困るので、委員長と相談して作成するということがかか。 ・第2次鎌倉市図書館サービス計画の中に、鎌倉市図書館の基本方針が決まっている。その上で、今回の答申がある。答申案の中に、当面、直営で運営していくのが妥当であると記載されている。当面という字は取って欲しい。協議会の中で、直営で運営していくのが望ましいと意見が一致したので、当面という言葉はいらぬ。技術職員の採用について言及した点、サービス計画についても触れられている点、正規職員は1名は必要であるとした点は評価している。答申があったから今後変えられないということはないと解釈している。基本的なところでは意見を吸い上げた答申案と思う。